

第4章 研究計画書

1、研究計画書の作成方法

- ・本校では研究計画書の作成は次の2点を条件にしている

- ① **ポスター様式**で書く（次ページ） → 探究活動の要素を全て満たすことができる
- ② 得ていない情報も **予想して書く** → 計画内容の質が上がる

1、なぜポスター型の計画書なのか？

- ・具体的には次のページのような**ポスター型の研究計画書**を用いる。
この様式は**図2**に示すように、**探究プロセスの要素と対応**している。
- ・そのため、この様式に従って研究計画を立てれば、探究プロセスに慣れていなくても探究活動を計画することができる。

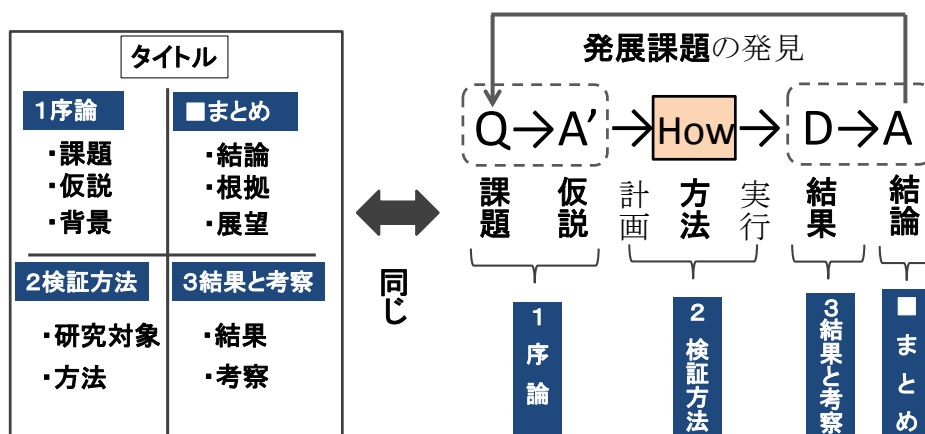


図1 ポスターの構成（左）と探究プロセス（右）の比較

：示していないが、左図の「展望」と右図の「発展課題の発見」が対応する

2、なぜ結果や結論も予想するのか？

- ・本校では研究計画書に結果D[データ]や結論Aも予想して書く。その理由は「先に結果や結論を考えることで、計画の質が上がる」からだ。
 - ・探究プロセスは図2のように一方向に表現されているが、実際には、図3のように互いの要素が影響し合っている。
 - ・例えば方法を考える場合は、ほしい結果や結論やから逆算して方法を計画する。課題解決に必要なデータを先に考え、そのデータを採る方法を考えるのである。
- また、方法を考えることで、実現できないような場合は、**実現可能な課題Qに改善**することをもできる。

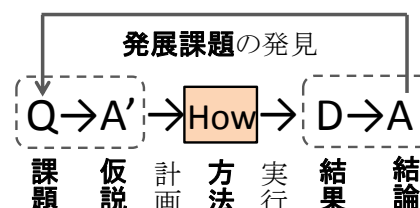


図2 探究プロセス

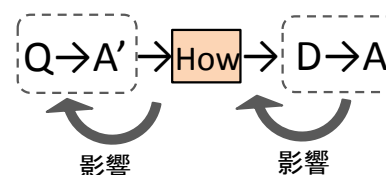


図3 各要素の影響

分野（ ）

研究計画書（書き方）

タイトル「※何をするのかが伝わり、さらに相手が聞きたくなる（興味を引く）タイトルが望ましい」

1、序論

問い q ※課題 Q をつくる抽象的な問い（疑問文）

↓具体化 P

課題 Q ※仮説設定できる具体的な問い（疑問文）

仮説 A' ※課題 Q に対して予想する答え

背景 ※この課題に至る経緯を示す（箇条書きが望ましい）

序論は「なぜこの課題に取り組む必要があるのか」
を相手に説得するところ」である

2、検証方法

対象 ※調べる or 確認する対象
(生物、地形、現象など)

方法 ※調べる or 確認する方法

チェック項目 ※参考にしてください

☐ その方法は実現できることですか？

☐ 伝わりやすい工夫はできていますか？
※イラストや写真を効果的に使うなど、

■ まとめ

結論 ※課題 Q に対する答え

根拠 ※正しさの根拠を示す（箇条書きが望ましい）

例 結果（データ）の分析から言えることや
先行研究との比較や理論など

展望 ※今後の発展的課題や応用方法などを示す

3、結果と考察

結果→ 今回得られると期待するデータ。

※予想で構いません。

「こんなデータが取れるいいな」という
理想のデータを考えて示してください。

チェック項目 ※参考にしてください

☐ そのデータは課題を解決する根拠に
なるものですか？

☐ 伝わりやすい工夫はできていますか？
※表やグラフやで表すなど、

考察→結果から何が言えるのか（意見）を示す。

参考文献 情報元を特定できるように示す

書籍の場合→ 出版日、著者『 書籍名 』出版社

例 2013 酒井隆司『ワークシート発想法』ブイツーソリューションなど

共有資料

研究計画書（ ） 回目

※研究ノート（右ページ）に貼る

タイトル「」

作成者：複数人 OK（記録者は必ず） 名前

1、序論 問い q ↓具体化 課題 Q 仮説 A' 背景	■ まとめ 結論 根拠 展望
2、検証方法 対象 方法	3、結果と考察
参考文献	

◆現在の課題を3つ疑問文で書く